

# 年頭所感

## きそく 驥足を展ばし新たな道を切り拓く



東大阪商工会議所  
会頭 濱谷 和也

新年あけましておめでとうございます。  
旧年中は会員の皆様並びに関係機関の皆様には東大阪商工会議所の運営に一方ならぬご理解とご支援を賜り、誌上ではございますが、厚くお礼を申し上げます。

昨年の第二十九期の役員任期満了に伴い、第三回臨時議員総会におきまして、皆様のご推挙により、引き続き本商工会議所の会頭を拝命致しました。中小企業をとりまく環境が激しく変化する中、地域総合経済団体である商工会議所が担う役割は益々重要性を増しており、地域経済のリーダーとしてその使命感に身の引き締まる思いでございます。引き続き皆様のご期待にお応えできるよう全力を傾けて参ります。

さて、昨年は大阪・関西万博が半年にわたり開催され、未来社会を描くテクノロジーにこれまでにない注目が全世界から集まりました。その熱気が冷めやらぬまま、本所では昨年11月に、東大阪産業展「テクノメッセ東大阪2025」を過去最高の出展規模で開催し、万博で披露された本市製造業のテクノロジーをはじめ、最新の製品・技術を一堂に紹介致しましたところ9,227人のご来場を賜り、改めまして、モノ

づくりのまち東大阪」の高度な技術力に大きな期待が寄せられていることを実感致しました。

しかし、中小企業にとりましては依然として厳しい環境が続いており、原材料をはじめとする諸物価の高騰とこれに伴う価格転嫁、構造的な人手不足と賃上げ対策など、乗り越えるべき課題は山積しておりますが、本所と致しましては地域中小企業が抱えるこれらの諸問題に対して真摯に向き合い、的確かつ効果的な支援策を展開して参りたく存じます。

その一つ目は、生産性向上による地域製造業の稼ぐ力の喚起です。

コストプッシュによる利益の圧迫、人手不足による生産力への影響が広がる中、生産性向上を図ることによって収益を確保し、これを原資とした賃上げによる人材の確保や労働環境の改善、更には成果を生む組織基盤の構築といった好循環を生み出すことは喫緊の課題であり、中小企業の生産性向上はわが国の重点政策のひとつとして位置づけられています。

本所では、地域製造業の生産性向上に関する課題解決に向けて、経験豊富な専門家を派遣し現場に則した解決策を提案するプッシュ型の支援を行うほか、企業の自律的な生産性向上活動を推進するリーダーを育成する事業に取り組ん

でおり、これらの事業に一層注力することによって地域製造業の稼ぐ力を喚起して参ります。

二つ目は、ＩＴリテラシー向上による地域中小企業のデジタル化の推進です。

近年、デジタル化の波は中小企業にも押し寄せており、ビジネスの競争力を保つためにはデジタル化の推進が不可欠となっています。しかし、中小企業においてはデジタル技術を導入・運用するための知識を有する人材不足が課題であることから、本所では地域中小企業のＩＴリテラシー向上に向けたデジタル人材育成事業やＩＴ関連の資格取得支援に取り組むほか、ＤＸ・ＩＴツールの体験会や、課題解決に向けた専門家の派遣など、総合的な支援で地域中小企業のデジタル化を推進します。

三つ目は、構造的な人手不足解消に向けた若手人材採用活動への注力です。

わが国では、長期的な人口減少が見込まれる中で、労働人口の減少により企業間の人材獲得競争が激化し、とりわけ中小企業におきましては次世代を担う若手人材の確保が深刻化しています。本所では官民連携により合同就職面接会をはじめ様々な人材確保事業を展開しておりますが、併せて、地域中小企業経営者と学生とが交流を図る機会を創出し、本市中小企業への就

職を促す地に足を付けた人材採用活動にも力を注いで参ります。

四つ目は、きめ細やかな経営支援による小規模事業者の持続的発展への支援です。

本市の多くを占める小規模事業者は、限られた経営資源を最大限に生かして商工業に携わっており、全国屈指の中小企業のまち東大阪市を根底から支える存在です。つきましては、本所経営指導員が総力で、補助金申請や資金繰りなどの伴走支援を強化し、小規模事業者の持続的発展に尽力して参ります。

今年の干支である丙午（ひのえうま）の年は、勢いとエネルギーに満ちて活動的になる年になるといわれます。国内外における政治経済の情勢が目まぐるしく変化し、私共中小企業が進むべき道筋は五里霧中の局面ではございますが、各々が積み上げてきた知恵と技を糧に、驥足を展ばし情熱と行動力で新たな道を切り拓きましょう。

今年が、会員の皆様にとって更なるご繁栄と地域産業発展の年になりますよう全力を傾けて参りますので、本商工会議所への一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。